

令和3(2021)年度 基盤研究(S) 審査結果の所見

研究課題名	微細マイクロプラスチックの動態を含む海洋プラスチック循環の包括的解明
研究代表者	磯辺 篤彦 (九州大学・応用力学研究所・教授) ※令和3(2021)年7月末現在
研究期間	令和3(2021)年度～令和7(2025)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>本研究は、プラスチックごみが自然環境下での劣化と破砕により微細化したマイクロプラスチックに着目し、その海洋環境下における挙動を定量的に解明することを目的としている。</p> <p>マイクロプラスチックの発生と海洋輸送、そして消失の諸過程を包括的に計測することにより、地球の海洋におけるマイクロプラスチックの分布と動態を明らかにする。</p> <hr/> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>世界的に問題となっているプラスチックごみがどのように環境中で変化し、海洋中で移動するかを定量的に把握することは極めて重要である。また、その挙動をモデル化することにより、測定結果の持つ意味を知ることができるようになり、学術的にも価値が高い。</p> <p>また、本研究の成果はプラスチック製品の生産、使用、廃棄の持続可能な管理や生分解性プラスチックの開発にもつながり、大きな社会変革を推進することが期待される。</p>